



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
豊中村役場

昭和30年3月31日、桑山村、比地大村、笠田村、上高野村、本山村が合併し豊中村になりました。昭和31年5月に新庁舎が完成するまで、旧笠田村役場が豊中村役場として利用されました。

「思い出の1ページ」

「合併をするにあたって各地区に説明会をして回りましたが、当時、国が合併を勧めていたこともあり、村民からは特に大きな反対はなかったと記憶しています」と豊中村の合併の経緯を知る元職員、野田豊さん（91）。「昭和31年には、新しい庁舎が今の豊中庁舎のある場所に建設されました。合併をして、道や川を広げたり、陣山の開発など大きな工事ができたことは地域にとってメリットだったと思います。当時は自転車に鑑札がついていて自転車税がかかっていた、通勤も自転車でした。『公用車に』と故大平正芳元総理大臣が大きな車を寄付してくれましたが、まだだれも免許を持っていなくて乗れなかったのが申し訳なかったです」

また、この庁舎で働いていた元職員の80代女性は当時をこう振り返ります。「今のような計算機やコピー機のない時代。印鑑証明や戸籍抄本はすべて墨汁で手書きで発行していました。常に間違いがないか不安でしたし、指はえんぴつでこで痛かったですよ。全員の戸籍の情報

を書く戸籍謄本の発行になると、職員で手分けして必死で書いていましたね（笑）。お客さんも待ち遠しかったと思います。税の申告も計算はそろばんで書類は手書きでしたから、終わるのは夜中の12時。それから整理をして帰ると夜が明けているなんてこともザラでした。村民とは顔なじみで、『元気なんな』と今でも声をかけてくれます。地域の皆さんにはいろいろ協力していただき、教えていただいたことに本当に感謝しています」

編集
後記



円安で喜んでる人、苦しんでいる人、それぞれですが、漁師さんは全般的に燃料費の高騰による経営の圧迫に気をもんでいます。それでも水揚げされる魚をお勧めしてくれる時は自慢の魚に目が輝きます。漁師さんの真剣な作業の様子を見ると、魚を食べ残すなんて罰当たりだと思えました。ぜひ旬の魚の美味しさを味わって最後の一口まで綺麗に食べてほしいものです。